

芝浦地区
運河ルネッサンス計画

芝浦運河ルネッサンス協議会

目次

1. 目標・基本方針

2. 位置・区域

3. 運河ルネッサンスによるまちづくり構想

4. 水域の利用に関する構想

5. 実現に向けて（具体的提案）

5-1 『芝浦』運河の回遊性の向上

5-2 『芝浦』の運河をめぐるクルーズの実施

5-3 フリーマーケットの継続と規模の拡大

5-4 『芝浦』運河クリーンアップ作戦（アドプト制度導入）

5-5 『芝浦』の運河を題材とした環境学習活動の拡大・推進

参考資料 現況の水域条件図

1. 目標・基本方針

運河ルネッサンスの目標

地域の暮らしをはぐくむ、『芝浦』運河の再生

～愛着と賑わいのある運河を目指して～

江戸時代には良漁場が広がる自然豊かな漁村、明治初期に鉄道が開通すると、海水浴や潮干狩りができる行楽地・花街、明治後半からの昭和初期にかけての埋立てにより、新たな産業や工場、港湾関係の物流・倉庫が立地すると、港町としての産業・住宅地。近年には、港の発展に伴って港湾関係の施設が移転すると、業務ビルやマンションが林立し、一時は都心に近いホットなウォーターフロントとして注目されました。このように、時代とともに、芝浦の地区が大きな変貌を遂げるなか、『芝浦』の運河は、位置などは当時のままであり、土地の目まぐるしい移り変わりをみてきました。

現在、都交通局跡地（通称、芝浦アイランド）で約 4,000 世帯が入居する大規模な再開発が本格的に進められ、住宅をはじめ、商業・業務・文教のある、複合的な市街地が形成されるなか、『芝浦』の運河は、この地域で、住み人、働く人々にとって、安心して、やすらぎのある運河にしていくことが重要と考えます。

そのため、運河ルネッサンスの目標としては、芝浦地区に住み、働く人々にとって、使いやすく、安心して、楽しめる、そんな『芝浦』の運河に、地域自らが取り組む運河の再生を目指します。さらに、このような取り組みを通して「運河のある町、芝浦」をアピールするとともに、地域を訪れに人々にとっても楽しい、運河を活かしたまちづくりを推進していきます。

運河ルネッサンスの基本方針

基本方針1. 安心して歩ける運河の回遊性の創出

『芝浦』運河では、運河沿いを散策できる遊歩道が整備されてきていますが、橋梁部分で分断され、連続して歩けない場所もみられます。芝浦地区に住んでいる人、働いている人々にとって使いやすい運河とするためには、運河沿い遊歩道や緑地が創出され、これらが連続して水と緑のネットワークを形成し、地区全体として回遊性の改善される必要があります。

そこで、運河沿い遊歩道・緑地の整備推進とともに、不連続部分の解消に向け、区や都と協力しながら、運河沿いの回遊性を確保していきます。

また、運河沿い遊歩道ができている場所では、他地域から訪れる人々のみならず、地元の人々でさえもあまり認知されておらず、散策や休息などの利用が少ないところもあります。それゆえに、子どもや親にとって人通りの少ない危険な場所として意識されている意見もきかれます。

そのため、協議会としては、運河沿い遊歩道の認知向上と、安全で、安心して利用できるよ

うに、案内版の表示や、散策マップの作成、快適な空間を維持するための清掃などといった活動に、区と連携しながら取り組んでいきます。

基本方針2. 運河における賑わい創出の推進

愛着と賑わいのある運河づくりを実現していくためには、芝浦地区に住み、働いている人々に、これまで以上に、『芝浦』の運河に対して理解や関心を深めていくことが必要です。実際、これまでに実施してきた芝浦運河まつりやフリーマーケット、クルーズ船の運航等の経験から、地域の人々の運河に対する関心、興味の高さを実感しています。運河の認知が高まれば、『芝浦』の運河づくりに対する関心が芽生え、地域自らで考え、取り組む運河づくりの土壌につながっていくと考えます。

そこで、協議会としては、まずは、自らの地域にある運河への認知や関心を深めるための機会提供として、これまで以上に、フリーマーケットや運河クルーズ、ミニシンポジウム等のイベントを自ら企画・実施し、賑わいと魅力のある運河を創出していきます。

さらに、芝浦を訪れる人々にとっても楽しい、賑わいのある地区にするために、運河沿いの魅力創出に努めます。このような賑わいや魅力の創出にあたっては、地域一丸となった取り組みが必要であることから、地域住民や立地する企業などとの協力体制を構築していきます。

また、賑わい創出にあたっては、地区に備わる資源や運河沿い遊歩道、柵付き防災船着場等、既存ストックを活用し、創意工夫しながら取り組んでいきます。

基本方針3. 地域ではぐくむ運河づくりの取り組みの推進

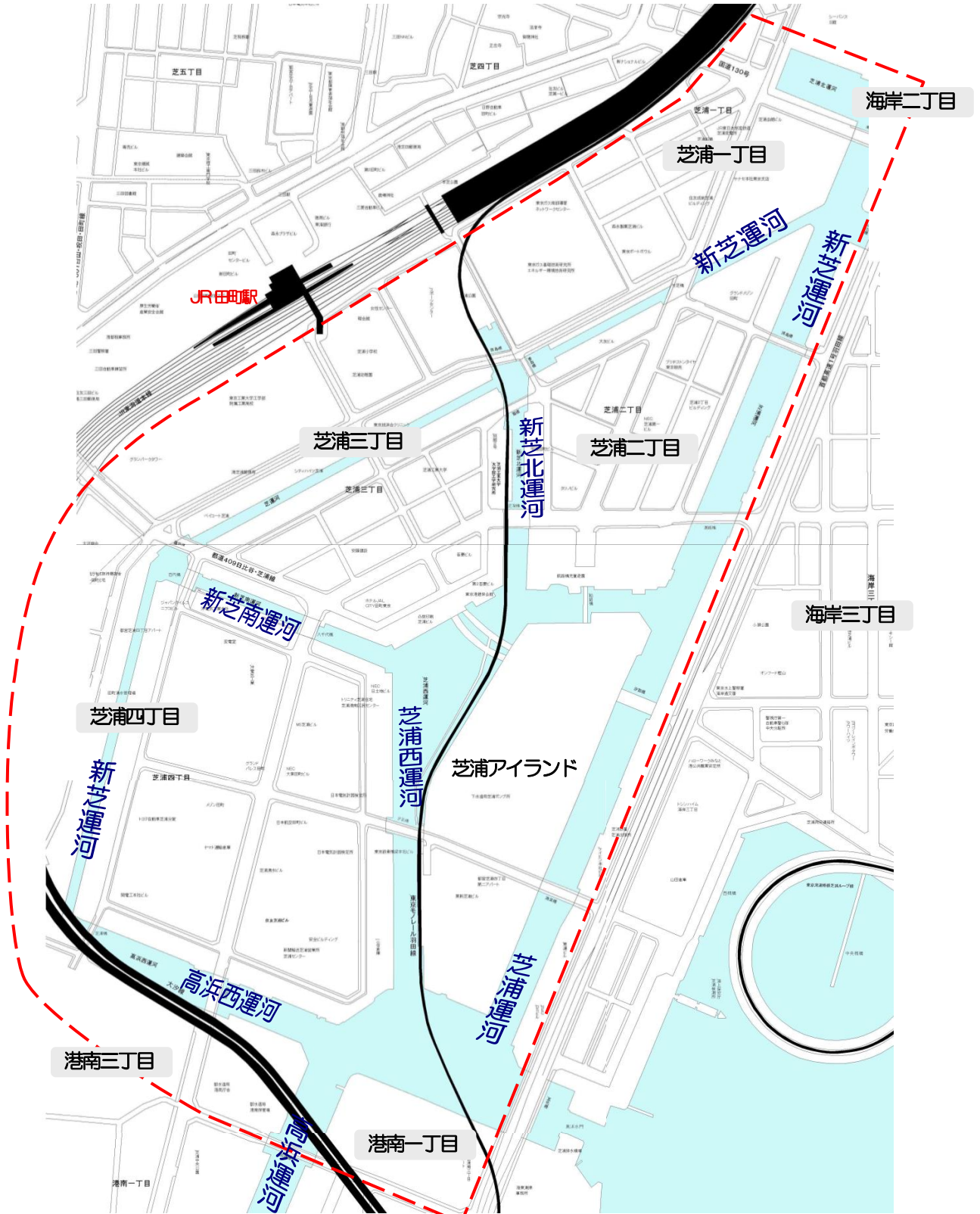
使いやすい、愛着のある『芝浦』の運河にするためには、芝浦地区に住んでいる人、働いている人など地域の人々自らが、『芝浦』運河を心地のいい場所にしていく意識とその取り組みを実践していく仕組みが必要であると考えます。

そこで、協議会としては、地区内の各運河において、例えば、ゴミの清掃、花壇などの設置や管理などについて、それぞれの町内会や立地している企業などが共に参加して取り組んでいくことを推進していきます。

また、既に実施されている、芝浦小学校における『芝浦』運河をフィールドとした環境学習は、次世代を担う子どもの運河や芝浦地域への関心を深める意味で重要な取り組みといえます。そのため、協議会においても、このような運河の総合学習について、近隣の小学校等でも展開できるよう関係機関に働きかけるとともに、いろいろな面でのサポートをしていきます。

2. 位置・区域

対象とする地区は、再開発事業が進められつつある芝浦アイランドや、昨年、既に実施された「芝浦運河まつり」の取り組み等との連携を考慮して、JR田町駅に西側の区域（陸域・水域）とします（下図参照）。



3. 運河ルネッサンスによるまちづくり構想

芝浦地区の運河をテーマとした環境学習の実施

- 既に実施されているように、芝浦地区の運河を学習フィールドとした環境学習（総合学習）を、近隣の小学校などと連携し、拡大、展開する

柵付防災船着場の地元による活用（クルーズのイベント等）と、管理

- 内部護岸の整備に伴い設置されている柵付き防災船着場を開放し、地元により、イベント等の活用等、施設の管理を行う。

運河沿い遊歩道を活用した、フリーマーケット等による賑わい創出

- 藻塩橋～竹芝橋間の運河沿い遊歩道を活用したフリーマーケット（約300区画）イベントの開催。

芝浦地区の運河沿い遊歩道の回遊化

- 運河沿い遊歩道と背後との連続性を確保する。
- さらに内部護岸が整備されて開放されていない場所の開放化や新たな運河沿い遊歩道の整備を進め、地区全体の回遊性を高める。

芝浦地区の運河クルーズイベントの定期的な実施

- 既に実施されたように、芝浦地区の運河を、地元を含め、より多くの人々に広報、認知されるよう、船を活用したクルーズイベントを定期的な開催する。

運河沿い遊歩道の清掃等、地元等によるアドプト制度等の導入

- 新たに創出された遊歩道において、周辺住民など、地元等による清掃活動等のアドプト制度を導入し、快適な運河の環境の維持を図る。

歩道環境の改善（3つの橋梁の一体化）

- 運河沿い遊歩道の連続性や日常の利便性を確保するため、3つの橋梁の一体化（ペDESTリアンデッキ等）を図る。

水辺広場の創出

- 芝浦アイランドを周遊する遊歩道に沿って、快適な水辺環境や良好な景観を提供する、芝生等の広場的な空間を創出する。

水上交通に対応した護岸の創出

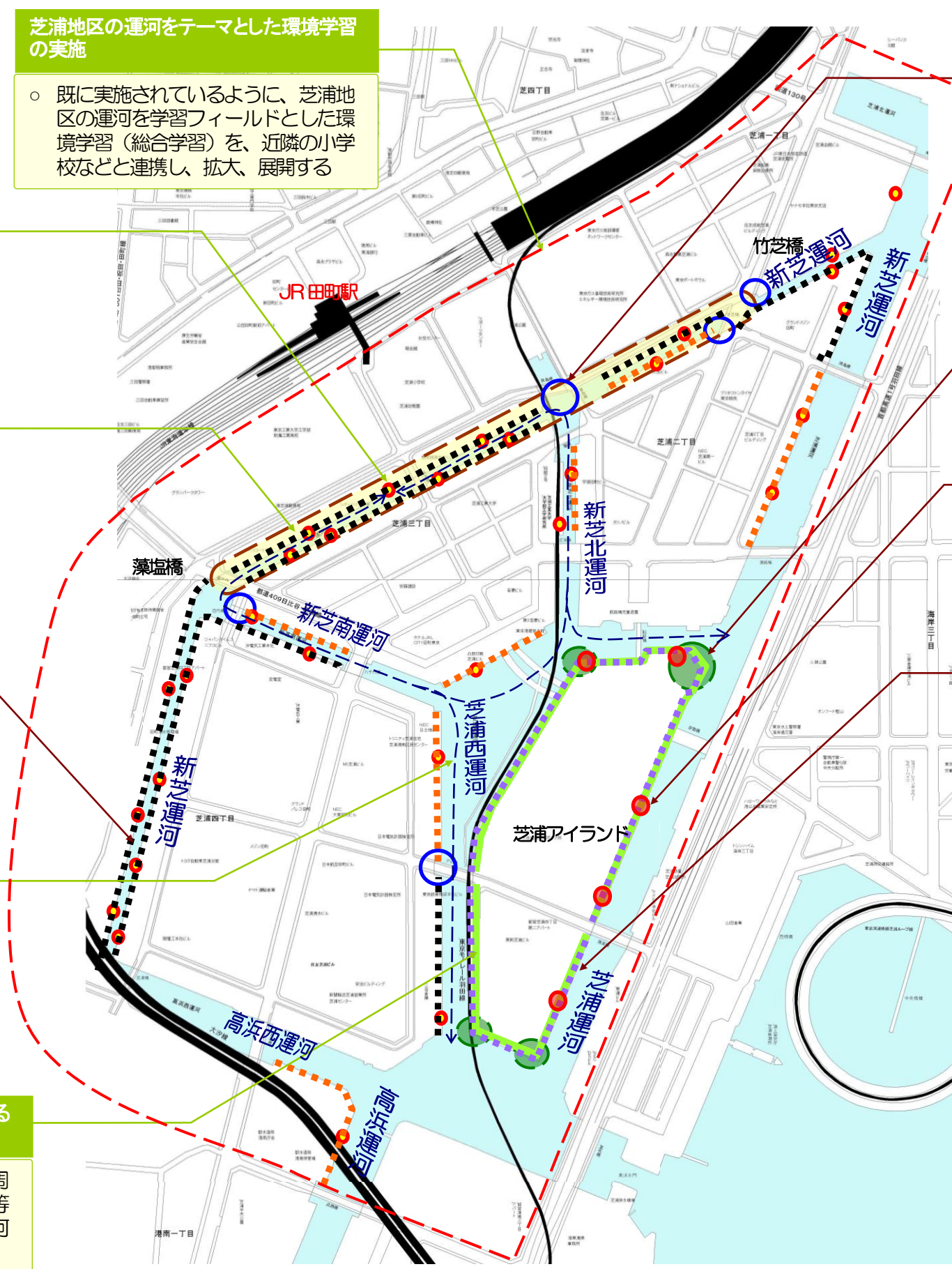
- 災害時の避難、緊急物資輸送、また平常時の水上バス等の利用可能な護岸を確保する。

景観性、快適性に配慮したアイランド地区内の回遊性の創出

- 芝浦アイランド周囲の遊歩道では、緑地との一体化、植栽等を施し、散策環境としての快適性を創出し、回遊性を確保する。

凡 例	
赤のボックス	緑のボックス
施設等整備に関する構想	ソフトの取り組みに関する構想

- 現状の運河沿い遊歩道（現状）
- 内部護岸整備済で開放されていない区間
- 運河沿い遊歩道の整備計画のある区間
- 運河沿い遊歩道と橋梁等との不連続の解消
- 水辺広場空間の創出
- 水上交通に対応した護岸の創出
- 柵付防災船着場



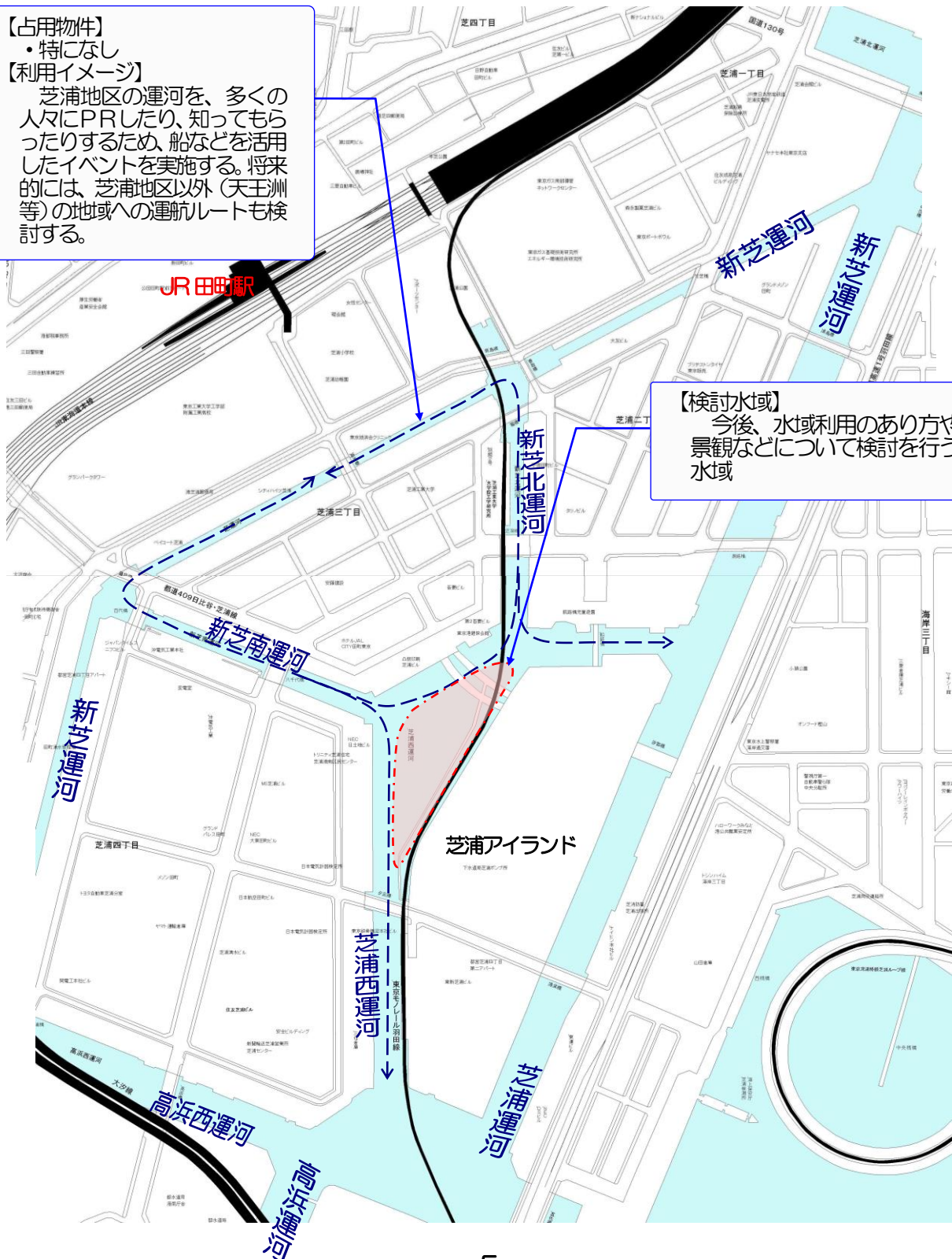
3. 水域の利用に関する構想

運河（水域）からまちを眺めると、まちの表情も普段とは違ってみえます。また、橋の下、水鳥の群れ、飛び跳ねる魚など普段は気づかなかったことが体験できます。さらに、芝浦地区では幅の狭い運河が多いですが、船にのってみると、ただ水が流れているところではなく、「運河なんだ」と実感することもできます。そんな体験を、もっと地域の人々に提供していきます。これを通して、まちづくりの中で運河を考える気運を高めていきたいと考えます。

芝浦西運河では、芝浦アイランド等の再開発の動向をみながら、今後、どのような水域利用がよいのか、景観をどうするのかを考えていきます。

【占用物件】
・特になし
【利用イメージ】
芝浦地区の運河を、多くの人々にPRしたり、知ってもらったりするため、船などを活用したイベントを実施する。将来的には、芝浦地区以外（天王洲等）の地域への運航ルートも検討する。

【検討水域】
今後、水域利用のあり方や景観などについて検討を行う水域



5 実現に向けて

“地域の暮らしをはぐくむ、『芝浦』運河の再生”を実現するため、次のような取り組みを行います。また、護岸などの公共施設の整備などについては、東京都や区と連携を図り、整備を推進していきます。

5-1 『芝浦』運河の回遊性の向上

1. 取り組みの目的（主旨）

新芝運河では内部護岸整備による運河沿い遊歩道が整備されていますが、橋梁などにより分断している箇所もみられ、橋梁とのアクセス、隣接する遊歩道との連続性が確保されているのは新芝橋だけです。

運河を活かしたまちづくりを推進していくにあたっては、身近にある運河の存在を認知してもらい、運河沿い遊歩道をもっともっと利用してもらうことが必要です。そのため、今後とも、運河沿い遊歩道の整備を推進していくとともに、連続して歩ける運河沿い遊歩道の整備も進め、運河沿い遊歩道を活用した地区全体の回遊性を高めていきます。

2. 取り組みの内容

特に、運河沿い遊歩道の連続性が保たれていないところを中心に、不連続性の解消を図っていきます（下の図及び次頁の図を参照）。

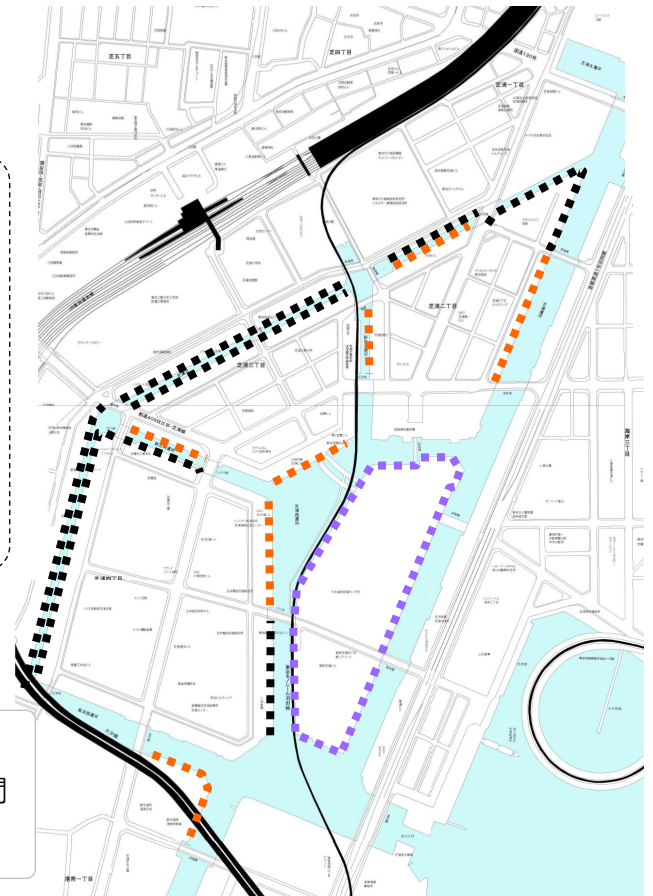
- 橋梁と遊歩道、遊歩道同士の連続性が確保されていない箇所（「×」）の改善
- 背後からの運河沿い遊歩道へのアクセス（入口）の確保

なお、運河沿いの未整備な遊歩道の整備や、閉鎖されている遊歩道の開放を東京都に働きかけていきます。

協議会としては次の役割を担っていきます。

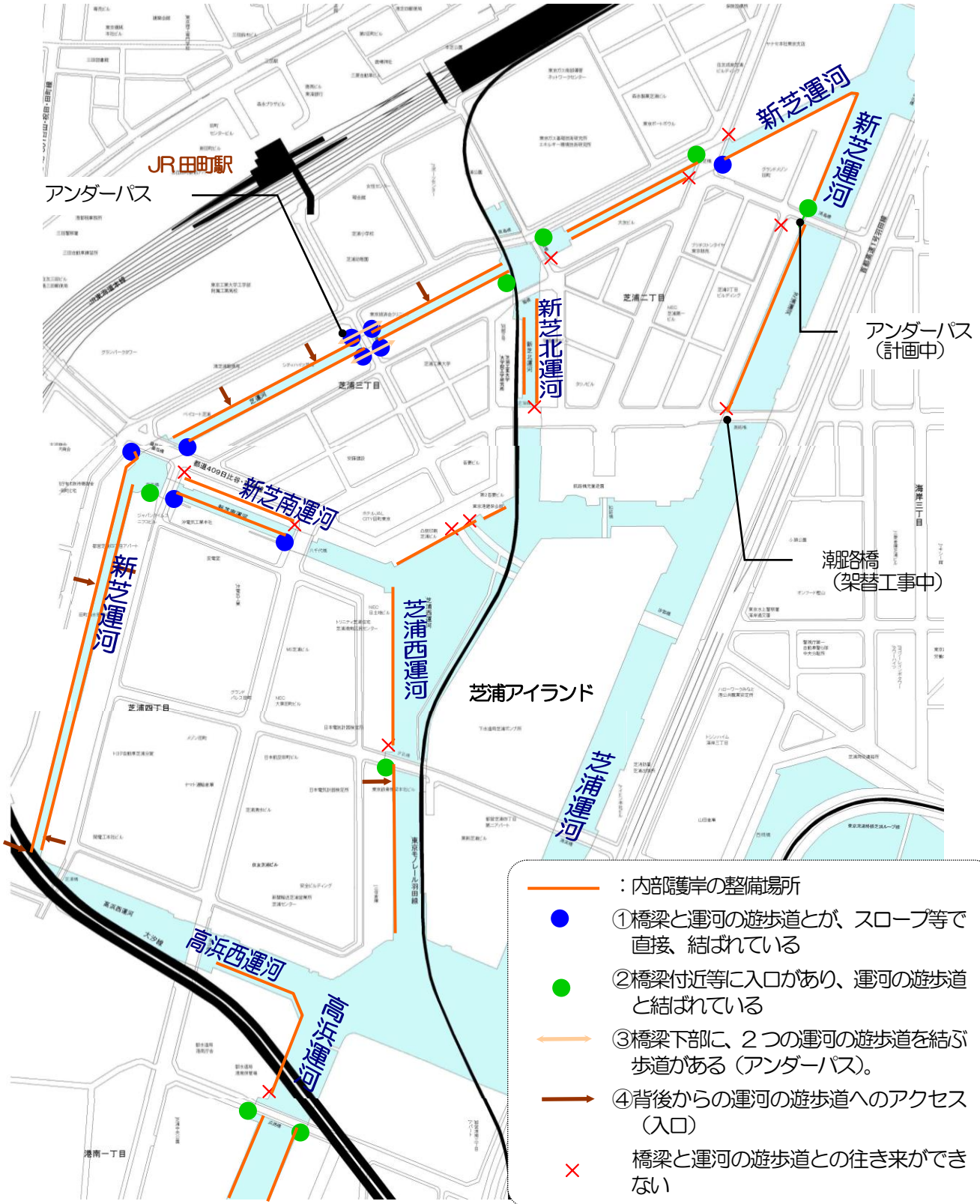
- 都や区に対して、運河沿い遊歩道の整備や閉鎖されている遊歩道の開放の働きかけ
- 閉鎖されている遊歩道の開放や、アクセス（入口）の設置にあたっての地元調整
- 運河沿い遊歩道の認知や利用向上のための仕掛けづくり
 - わかりやすい案内板表示の検討（実験）
 - 『芝浦』運河マップの作成 等

- 現状の運河沿い遊歩道（現状）
- 内部護岸整備済で開放されていない区間
- 運河沿い遊歩道の整備計画のある区間



3. 現状

- 芝浦地区の運河沿い遊歩道の現状は、下の図のとおりです。



5-2 『芝浦』の運河をめぐるクルーズの実施

1. 取り組みの目的（主旨）

地域の人々に対して、運河のあるまち『芝浦』に対する関心と理解を深め、運河を活かしたまちづくり、地域おこしの気運を高めるため、船を使って、運河（水域）から芝浦のまちをみる機会を提供します。

- 自分の住む街を、いつもと違う目線（運河より）で見る
- 芝浦運河の生物の生態状況
- 不法投棄などによる運河の汚染

2. 取り組みの内容

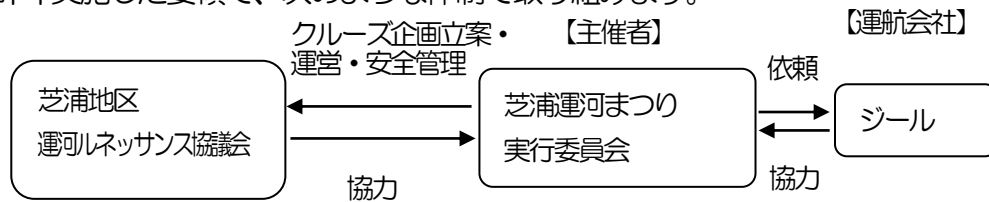
①使用船舶

船名	ZEN FLEET（ゼンフリート）
全長	9.00 m
全幅	3.55 m
定員	旅客 40名 船員 2名
主機	90馬力 2機
用途	旅客船



②実施体制

- 昨年実施した要領で、次のような体制で取り組みます。

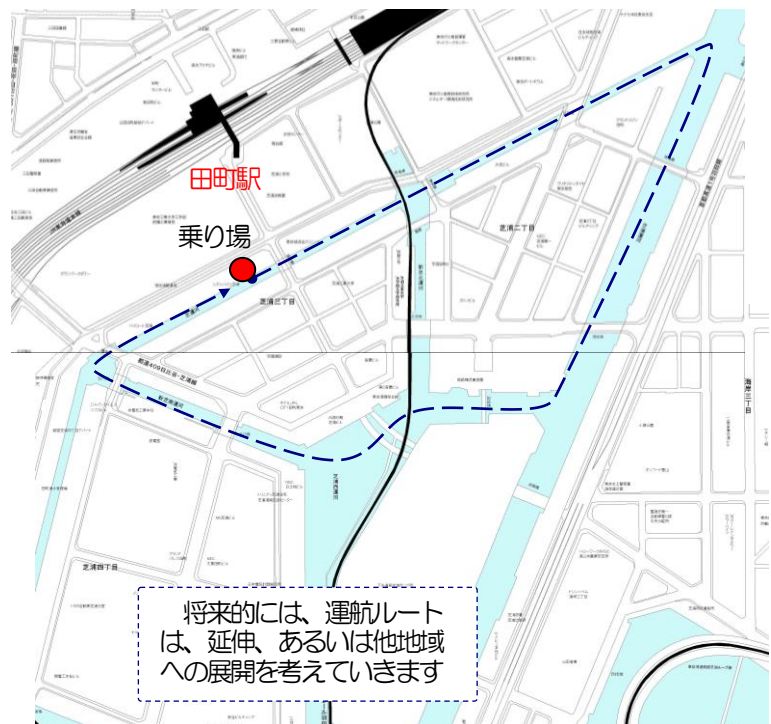


③運航コース

1周 約 1.6km

航行時間 約 15分

20回（10時～16時）



将来的には、地元有志の協力を得ながら、木造船の建造し、その建造過程では、HPや見学会などを開催し、多くの人々に発信していきたいと考えています。さらに、建造した船をつかって、地元の子どもたちを乗せ、『芝浦』の運河クルーズを実施していきたいと考えております。

3. 昨年度の実施状況

- 昨年、フリーマーケット（ざこ市場）と同時に実施した、運河クルーズでは、約200人の人が乗船しました（状況写真）。



5-3 フリーマーケットの継続と規模の拡大

1. 取り組みの目的（主旨）

昨年、実施したフリーマーケットでは、約70の出店区画に、早くから予約が殺到して満杯状況になりました。また、午前10時からの約5時間の間に、約900人（推定）の来場者を数え、全体的に盛況でした。

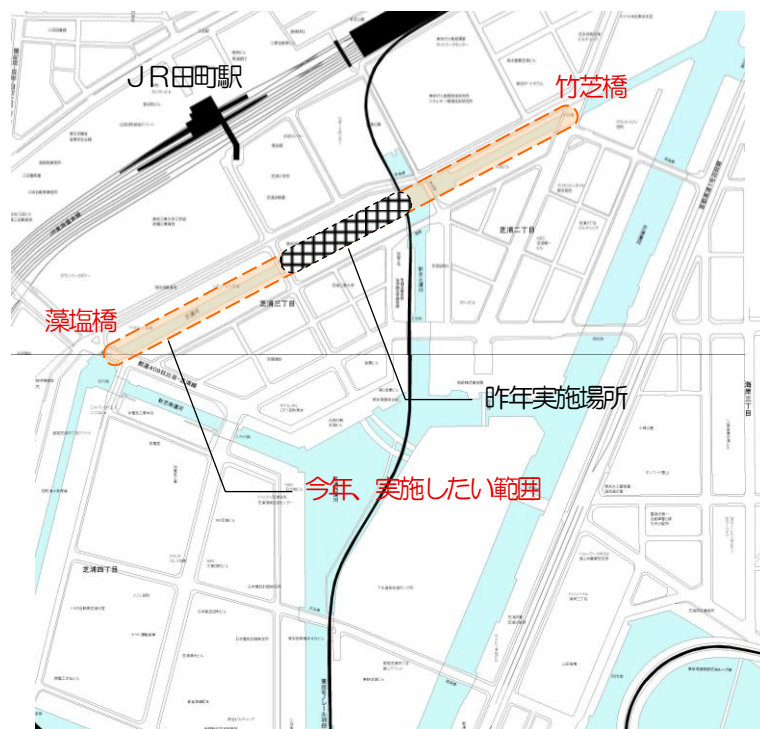
フリーマーケット自体は、家庭内の不要物の再利用を目的としますが、運河を舞台としたフリーマーケットの開催を通じて、運河の賑わい創出はもちろん、地域同士のコミュニケーションの活性化させるとともに、来場者に対しては、『芝浦』運河の認知度を高めることを目的に実施していきます。

2. 取り組みの内容

昨年、フリーマーケットを実施した範囲よりも広く（藻塩橋～竹芝橋）、出店区画も300程度を確保して、大々的に取り組んでいきます。さらに、今後とも、継続的、かつ定期的で開催していきたいと考えています。

協議会としては、次のことに取り組んでいきます。

- フリーマーケットの実施までにおける各種手続き(遊歩道使用許可等)
- フリーマーケットの開催案内等の広報と安全体制
- 実施時の設営と撤収、安全確認等
- 協議会としての模擬店、朝市等の設置と運営



3. これまでの芝浦運河まつりの経緯

これまでに実施してきた芝浦運河まつりの経緯について

年月	内容	場所
2003年11月	芝浦運河まつり（プレイベントの開催）	新芝運河、芝浦バイコート横
2004年3月	芝浦運河まつり （田町駅東口整備記念事業）	田町駅東口等

1. 取り組みの目的（主旨）

昨年、実施した芝浦小での総合学習における児童や保護者からみた現状の運河に関するアンケート結果からみられるように、現状では、「水が汚い」、「ゴミなどが多い」、「危険（人が少ない）」等、運河（遊歩道含む）の環境に対する指摘が多くありました。

運河（遊歩道含む）を、水もきれいで、ゴミも少なく、安全・安心な環境にしていくためにはいろんな方法が考えられますが、まずは、地域の自分たちで、運河を含めた環境をきれいにしていくことが大事であると考えます。

そのため、ゴミ等の清掃活動への参加者を募り、運河のクリーンアップを進めていきます。このような体験をもとに、運河に関する共通認識の形成とともに、「どうしたら、安全で安心な運河になるか」、「きれいな運河を保つにはどうすればいいか」等を考えてもらい、ゆくゆくは運河ミニシンポなど、みんなで考える運河づくりを進めていきたいと考えています。

- 直接、運河にかかわることで、運河への愛着を育ませる
- 来訪者にとっても気持ちのいい運河環境の維持
- 運河（遊歩道）の認知向上

2. 取り組みの内容

まずは、運河沿い遊歩道を含めた、環境活動を、地域の人々で取り組んでいきます。

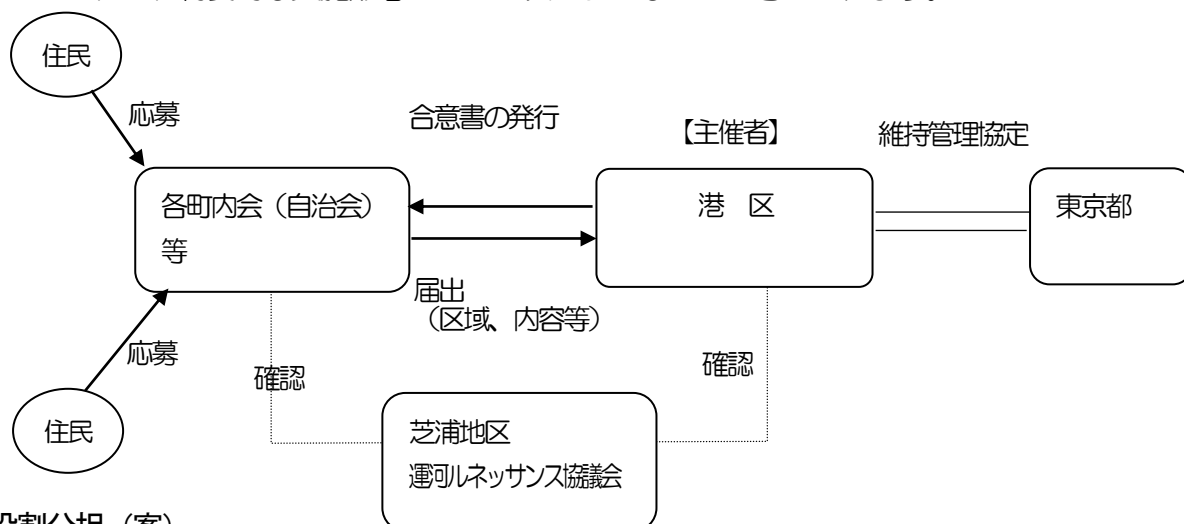
その後、このような活動に参加した人々を中心に、「運河に関するミニシンポ」を開催していきたいと考えています。

①対象となる場所

- 都と区の維持管理協定区間が設定されている場所（別紙参照）

②実施形態

- アドプト制度的な実施形態としては次のようなことが考えられます。



③役割分担（案）

【各町内会等】

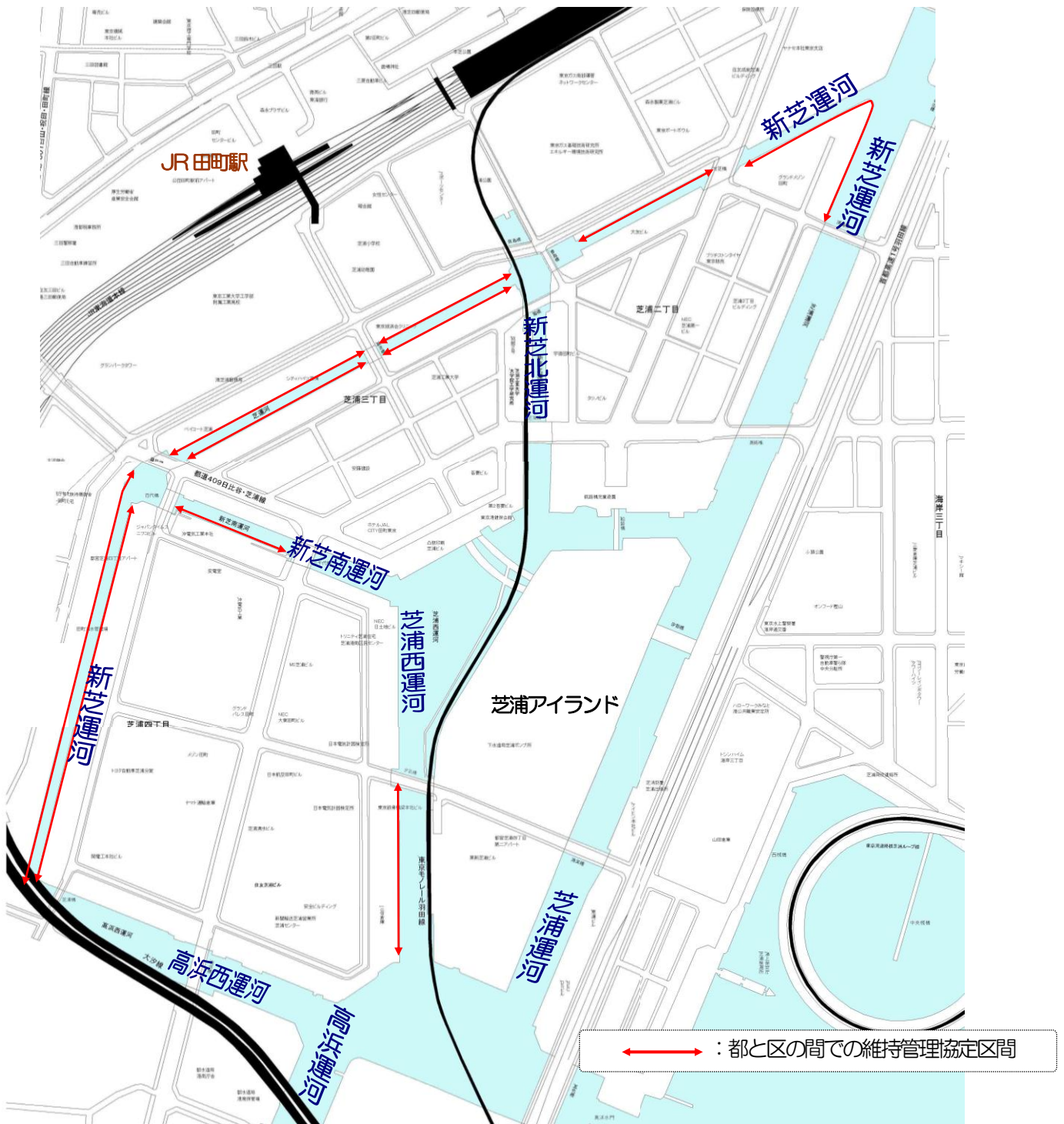
- 担当区域内の空き缶や吸い殻等の散乱ゴミの収集
- 管理区域内の除草情報の提供
- フラワーポット等花壇の設置 等

【行政（港区等）（想定）】

- 活動に対して、必要最低限の物品や用具等の支給及び貸与
- アドプトサインの設置（管理している団体名の表示）
- 年度ごとに表彰制度等

3. 都と区の維持管理協定区間について

現状において、東京都と港区において、運河沿い遊歩道についての維持管理協定を行っているのは、下の図のとおりです。



1. 取り組みの目的（主旨）

これまで、芝浦小学校では、『芝浦』の運河を、学習のフィールドとした総合学習を実施してきており、市民団体である「運河を美しくする会」は、平成14年から、これらの学習を支援してきています。

このような取り組みについては、運河ルネッサンスの目標である“地域の暮らしをはぐくむ運河の再生”を、子どもたちからの視点で考える意味で重要なことであると考えております（以下参照）。そのため、協議会としても、運河を題材とした環境学習活動の拡大、推進に向けた支援に取り組んでいきます。

致したものであり、協議会としても、

- 子どもたちに、地元の運河への関心、理解を深めてもらう
- 子どもを通じて保護者（親）に対しても認知を深めていく
- 将来的には、運河を有する臨海5区での展開を想定し、子どもたちの調査や研究の発表の場としてのミニシンポなどへの展開

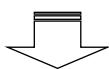
2. 取り組みの内容

協議会としては、当面、芝浦小学校での運河の総合学習活動を支援、さらに、多くの人々に認知、公表する機会の提供を中心とする取り組みを行います。

将来的には、港区だけでなく、品川区、その他臨海地区への展開を考え、運河の総合学習学校ネットワークを構築し、研究成果の発表の場や、子どもたちによるシンポなどを企画、運営していきたいと考えます。

（現 状）：現在の総合学習活動の支援の継続

- 芝浦小学校における運河の総合学習活動の支援と、定期・継続化
- 総合学習結果（研究成果）の展示（運河沿いでの看板等での工夫）
- 近隣小学校への展開と支援



（将 来）：運河を題材とした環境学習活動を、臨海5区へ拡大

- 他の臨海5区への展開を想定した、環境学習プログラムの作成等
- 「（仮称）子どもたちによる運河シンポジウム」、「東京港の運河についての大発表会（環境学習成果）」の企画・実施

3. 芝浦小学校における運河の総合学習の取り組み（運河を美しくする会資料より）

- 芝浦小学校（4年生）の総合学習支援「もっと知りたい芝浦の運河」を行い、児童及び保護者に対して、芝浦の運河に対するアンケート結果を示す。

（経 緯）

「運河を美しくする会」では、平成14年から毎年、芝浦小学校の総合学習支援として、会独自の教材を使い「運河の授業」を実施しています。

今年も芝浦小学校4年生担任の船木先生から、運河に関する総合学習支援を要請され、7月9日に運河の歴史・世界の運河・運河の汚れ・運河をきれいにするには？・運河への提案等の内容を含む「運河の授業」を行いました。

その後、子供たちは夏休みの自由研究として運河について調査・研究し、テーマごとにまとめを行いました。

11月に入り船木先生から発表会の指導を再度要請され、11月16日に4年生が3年生に対して自分たちの発表内容をわかり易くワークショップ形式で発表する発表会で、疑問点等についての指導を実施しました。

会から芝浦小学校4年生および保護者の方に担任を通じて、今回の運河に関する調査研究で、運河に対しての感想、意見、提案等の提供をお願いしたところ、児童55名、保護者30名から回答をいただきました。

(児童および保護者アンケートの結果概要)

<児童の回答:>

- ①ごみのない水のきれいな運河
- ②植物、生物が多い運河
- ③ボート、泳ぎ、魚釣り、レストラン、まつり、遊び場のある楽しい運河
- ④運河を紹介する看板

<保護者の回答:>

- ①人通りが少なく、照明が暗い、死角が多いなど安全面での指摘が一番多く、親も子供も水辺に近づきにくくなっている。
- ②ごみ・ヘドロのないきれいな運河
- ③遊歩道の連続性、橋と橋の間に人と自転車が通れる程度の橋、お茶・おしゃべりができるしゃれた場所、きれいな花、船上でのランチ、ボート遊び、遊覧船、きれいなベンチ、遊具などがある楽しい運河
- ④運河の生物や運河の紹介等の看板

参考資料 現況の水域条件図

